

令和3年度国立大学法人等
職員採用（図書系）第二次試験問題

注 意 事 項

1. 問題は16問（26ページ）で、解答時間は1時間30分です。
2. この問題は、後ほど回収します。切り取ったり、転記したり、持ち帰ったりしてはいけません。
3. 下欄及び解答用紙に第一次試験受験番号及び氏名を記入してください。

第一次試験受験番号

氏名

指示があるまで中を開いてはいけません

【No. 1】

次は、文部科学省 科学技術・学術審議会 情報委員会 ジャーナル問題検討部会「我が国の学術情報流通における課題への対応について（審議まとめ）」（令和 3 年 2 月 12 日）の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

近年のオープンアクセスの急速な普及に伴い、論文をオープンアクセスにするための費用である の負担増が新たな課題として顕在化する等、ジャーナルを取り巻く問題は、従来の購読価格上昇の常態化にとどまらず、より拡大・複雑化している。これに対して欧州では オープンアクセスを中心にオープンアクセスを促進させる OA2020 や、研究助成機関から助成を得た研究の成果を論文公表後直ちにオープン化するよう義務付ける PlanS といった動きが活発化している。我が国の大学等研究機関、研究者、図書館関係者等はこれらの動きに対して、我が国における研究成果の発信及び学術情報へのアクセスが諸外国から取り残されてしまうのではないかという危機感を一層高めることとなった。

（中略）

学術情報流通をめぐる状況はこれまで大きく変化してきた。大手海外商業出版社の購読ジャーナルを中心とする状況から、論文のオープンアクセス化が主要な課題と認識されるようになり、さらに平成 25 年 6 月の G8 科学大臣及びアカデミー会長会合（共同声明）等を契機に、諸外国では論文のオープンアクセス化を大前提として、公的資金による研究データのオープン化を促進することが戦略的に進められてきている。特にデータ駆動型科学の興隆により、論文だけでなく研究データそのものが大きな価値を持ち、国家、企業、出版社、研究機関の次の競争の要素となっているところである。

近年のオープンアクセスに関する政策として、例えば、欧州では、Horizon2020 で助成された研究成果のオープンアクセス化を義務付けており、Horizon2020 期間中は、 オープンアクセスに要する について、補助金を利用できるようにする等、科学技術政策と論文のオープンアクセス化を連動させている。

前述の OA2020 や PlanS、あるいは Horizon2020 のような政策的な動きによって オープンアクセスへの傾斜が強まったことに対応する形で、大手海外商業出版社は購読価格に論文を出版する経費である を一体化する購読・出版モデル（Read & Publish 契約等）を提案してきており、諸外国においては、従来の 契約からの転換が進んでいる。また、機関リポジトリでのアーカイブや、プレプリントサーバーへ掲載する等の研究者の自発的な取組を中心としてきた論文のオープンアクセス化、すなわち オープンアクセスにおいても、出版社によるプレプリントサーバーの買収といった動きが見られる。さらに、出版社が著者最終稿を自らのウェブサイトで閲覧可能とするサービスに乗り出す等、新たな局面を迎えている。

他方、 オープンアクセスの進展に伴う課題の一つとして、主に を目

当てにした粗悪学術誌 (Predatory journal, いわゆるハゲタカジャーナル) 等を媒体として, 粗悪な出版社に, 研究者や学術団体及び国際会議の人的ネットワークや研究費が収奪の対象とされているという状況も顕在化している。

(1) 文中の (ア) に該当する, 「主に著者が支払う論文処理費用」を表す用語の略語として正しいものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) APC
- (b) DDP
- (c) FTE
- (d) PPV

(2) 文中の (イ), (エ) に該当する語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) グリーン
- (b) ゴールド
- (c) プラチナ
- (d) ブロンズ

(3) 文中の (ウ) に該当する「特定出版社の全ての学術雑誌もしくは特定分野の雑誌を一括で契約する」ことを表す語句を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) アグリゲータ
- (b) エンバーゴ
- (c) バックファイル
- (d) ビッグディール

(4) 下線部の記述の影響を受けた我が国大学図書館全体の最近 11 年間 (平成 20 年度～平成 30 年度) の電子ジャーナル整備状況の変化として正しいものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 国外出版社タイトルの購読中止が増加し利用可能タイトルが減少したため, NACSIS-ILL の文献複写依頼総件数が増加した。
- (b) 国外出版社の利用可能タイトル総数が減少したため, 国内出版社の利用可能タイトル総数がこれを上回る逆転現象が起こった。
- (c) 国外出版社タイトルの価格上昇により, 電子ジャーナル総経費は大幅に増加したが, 利用可能タイトル数は約 70%に減少した。
- (d) 電子ジャーナル総経費, 利用可能総タイトル数ともに増加しており, 図書館資料費総額が伸び悩むなか, 電子ジャーナル経費の占める割合が増加している。

【No. 2】

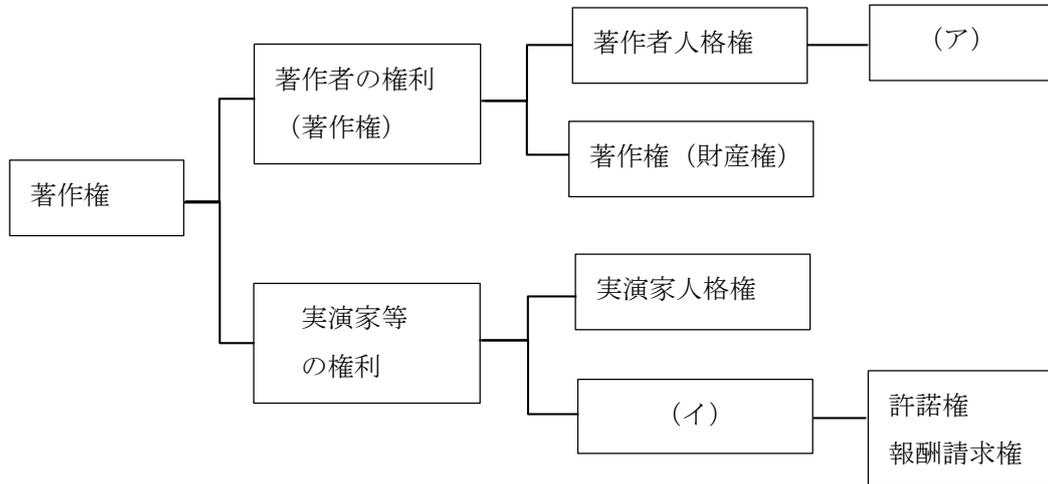
次は、大学図書館に関する日本の法令についての説明である。(1)～(4)に該当する語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- 1) 1879年制定の教育令で、学校とは小学校・中学校・大学校・師範学校・専門学校その他各種の学校とすることが定められた。また、1899年には が公布され、図書館が初めて独立の機関としての法令を持つとともに、学校が図書館を設置できること等が定められた。
- 2) 1949年、 が施行され、第6条で「国立大学に、附属図書館を置く」と定められた。
- 3) 1956年施行の では、図書館の設置が明記された。その後の改定により、「大学は(中略)図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする」と定められた。
- 4) 2004年に が廃止された。それに代わる法律として制定された には、国立大学に附属図書館を設置する規定はなくなった。

- | | | |
|-------------|-------------|-----------------|
| (a) 学校教育法 | (b) 学校図書館法 | (c) 教育基本法 |
| (d) 国立学校設置法 | (e) 国立大学法人法 | (f) 国立大学法人法施行規則 |
| (g) 社会教育法 | (h) 大学院設置基準 | (i) 大学設置基準 |
| (j) 図書館法 | (k) 図書館令 | (l) 文部省令 |

【No. 3】

次は、我が国の現行著作権法（昭和 45 年 5 月 6 日法律第 45 号）に規定された権利について整理した図である。



- (1) (ア) に該当するものを下から三つ選んで記号で答えなさい。
 (2) (イ) に該当するものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|----------------|------------|-----------|
| (a) 公衆送信権 | (b) 公表権 | (c) 氏名表示権 |
| (d) 上演権 | (e) 貸与権 | (f) 著作隣接権 |
| (g) 展示権 | (h) 同一性保持権 | (i) 特許権 |
| (j) 二次的著作物の利用権 | (k) 頒布権 | (l) 複製権 |

- (3) 「著作者人格権」と「著作権 (財産権)」について、以下の三つのうち正しいものをすべて選んで記号で答えなさい。

- (a) 「著作者人格権」と「著作権 (財産権)」は、著作物が創作された時点で「自動的に」付与される。したがって、権利を得るための手続きは必要ない。
- (b) 「著作者人格権」は、著作者が精神的に傷つけられないようにするための権利であり、創作者としての感情を守るためのものであることから、これを譲渡したり、相続したりすることはできない。
- (c) 財産的利益を守るための「著作権 (財産権)」は、その一部又は全部を譲渡したり相続したりすることができる。

(4)「著作権(財産権)」は存続期間が定められており、この期間を「保護期間」という。
手塚治虫(漫画家 本名:手塚治 1989年2月9日没)の著作物の保護期間として正しいものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 2039年2月9日まで
- (b) 2039年12月31日まで
- (c) 2059年2月9日まで
- (d) 2059年12月31日まで

【No. 4】

次は、Webページに関する記述である。(1)～(4)に該当するものをそれぞれ一つ下から選んで記号で答えなさい。

〔1〕は、ハイパーテキスト (Web ページ) を記述するための言語である。ほとんどの Web ページは〔1〕で記述されている。

〔2〕は、ハイパーテキストを転送するためのプロトコルである。ユーザが Web ブラウザに URL を入力したり、Web ページ上のリンクを選択したりすると、Web ブラウザは Web サーバにアクセスして、URL に対応するリソースを入手する。〔2〕を TLS (Transport Layer Security) のような暗号通信の仕組みとともに使ったものが〔3〕で、セキュリティの機能を高めている。

Web ページのデザインやレイアウトを整え、より見やすく表示したい場合は、CSS 等の言語により記述した〔4〕を Web ページに適用することにより、文字の書体や大きさ、画像の位置、余白等を調整することができる。

- | | | |
|----------|-------------|---------------|
| (a) API | (b) DHCP | (c) FTP |
| (d) HTML | (e) HTTP | (f) HTTPS |
| (g) SMTP | (h) TCP/IP | (i) オートコンプリート |
| (j) クッキー | (k) スタイルシート | (l) プラグイン |

【No. 5】

次は、学術雑誌の”Peer Review”について書かれた文章の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

There are many different types of journals in many different scientific disciplines. If we assume that a journal publishing one thousand articles per year has a list of three hundred and fifty reviewers to draw from and that every article is seen by two of them, every reviewer will judge on average six papers per year. If all five hundred thousand articles published in the peer reviewed journals were to receive the same treatment, this would amount to sixty thousand peer/paper contacts and involve ten thousand peers. Since there are approximately five hundred thousand scientists active as authors (each producing four papers as a member of a team of four) to be on a reviewers' panel means that one is in the top five percent of scientists. Gross as these approximations may be (is it perhaps the top ten percent?) this is why peers do not demand payment and, on the contrary, invest an average of three hours of their (organisation's) time in the article under review. Affirmation of their status and foreknowledge of the accomplishments of their colleagues/competitors are their rewards. Hard pressed for time as he may be, a scientist asked to review a paper very rarely refuses to do so. The smaller the discipline, the higher the scientist's standing, the more he is besieged. Nobel Prize winners can afford to refuse or name a replacement, important department heads may farm (part of) the job out to their subordinates and the depth of the review is of course a referee's responsibility, but it would seem that a call to review is hard to ignore. In the end a reviewer is found for every single article of the hundreds of thousands published each year in the thousands of peer-reviewed journals.

(de Vries, J. "Peer Review: the Holy Cow of Science."より抜粋)

- (1) ”Peer Review”の説明として最も適切なものを下から一つ選んで記号で答えなさい。
- (a) 投稿された論文が掲載に値するかどうか、専門の研究者が判断すること。
 - (b) 研究者が、自分の研究分野の研究動向を確認すること。
 - (c) ノーベル賞受賞者や重要な研究部門の長を務める研究者が、その分野の研究者の研究業績を評価すること。
 - (d) 出版される論文によって研究業績を評価するシステムのこと。

- (2) 研究者が **reviewers' panel** の一員となる見返りとして、文中にあげられているものとして正しいものを下から一つ選んで記号で答えなさい。
- (a) 他の研究者の成果をいち早く知ることができる。
 - (b) 所属研究機関からの研究費が増額される。
 - (c) 自分の執筆した研究論文が優先的に掲載される。
 - (d) 出版社から **review** 本数に応じた報酬が得られる。
- (3) 以下のうち、本文の内容と合致するものをすべて選んで記号で答えなさい。
- (a) 学問領域が小規模なジャーナルほど **reviewer** を確保できないことが多い。
 - (b) その学問分野の研究者の上位 5%ないし 10%が **reviewer** として選ばれる。
 - (c) 多くの科学者は **reviewer** になることを学界で評価された結果と受け止めるため、拒否することは少ない。
 - (d) **review** への参加呼び掛けを無視する科学者は多く、**peer-reviewed journal** で毎年掲載されている数十万の記事すべてに論文の **reviewer** をを見つけることは困難である。

【No. 6】

次は、オープンアクセスや新たな学術情報流通に関する記述である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

学術研究成果を誰もが無料でオンラインで利用できるようにすることが、オープンアクセスである。2002年に宣言されたブダペスト・オープンアクセス・イニシアティブ(BOAI)では、オープンアクセスの方法として、との二つが示された。は、研究者自身が個人のウェブサイトや機関リポジトリ、主題別論文アーカイブ等で研究論文等を無料公開する方法であり、は、誰もが無料で利用できるオンラインジャーナルを刊行する方法である。

の主題別論文アーカイブとして有名なものに、物理学分野で研究者間の論文草稿の電子的な交換の場として始まったやアメリカ国立衛生研究所(NIH)が構築・運営するPMC(旧称 PubMed Central)が挙げられる。

とは、利用者から購読料等の料金を徴収せずに刊行される雑誌である。として有名なものに、が挙げられる。は科学技術分野全体を対象とし、掲載にあたり一定レベルに達しているかどうかだけを迅速に判断している。広い分野を対象として巨大な数の論文を掲載するこうした雑誌は、メガジャーナルとも呼ばれ関心を集めている。

研究成果を社会に開放することは、近年「」の潮流として注目されている。は、オープンアクセスに加えて、研究データの利活用に関わる「」が、大きな二つの内容となる。

研究データとは、研究の過程で、あるいは研究の結果として収集・生成される情報を指し、実験データ、観測データをはじめさまざまなものがある。研究データの公開・再利用を促進するため、研究分野を超えた研究データの管理およびオープン化を可能とする研究データ基盤の整備や、研究コミュニティでのデータ戦略の確立等が直近の課題となっている。

(1) (ア), (イ) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) OA ジャーナル (b) クリエイティブ・コモンズ
(c) セルフアーカイビング (d) デジタルアーカイブ (e) データジャーナル

(2) (ウ), (エ) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(a) arXiv

(b) Lancet

(c) PLOS ONE

(d) PNAS

(e) WoS

(3) (オ), (カ) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(a) オープンサイエンス

(b) オープンデータ

(c) クラウドストレージ

(d) 研究公正

(e) プレプリントサーバー

【No. 7】

次は、ある大学図書館職員の日記である。(1)～(4)に該当する語句を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

2019年10月13日：昨日は台風が来て午後から臨時閉館にした。今朝出勤したら天井の一部から雨漏りが発生して、酸性紙の本がだいぶ濡れていたのので応急処置をした。昔読んだテキストに、資料の劣化要因には内的と外的があって、内的要因の一つが酸性紙、外的要因が利用と と災害だ、と書いてあったが、今回は内的と外的のダブルパンチだ。

2019年10月14日：台風は隣の**地方を直撃した。SNSをチェックしたら**地方の図書館はどこも大変な状況のようだ。△△大学図書館さんが支援募集していたので、週末、応援に行くことにした。

2019年10月15日：自館の雨漏りエリアの調査で久々にマイクロフィルムを確認したらビネガーシンドロームが起きていた。残念だが、10年以上前にCD-ROMにデータを移し、先月はさらにハードディスクに保存していたから、とりあえず利用には困らない。こうして定期的に をしておいてよかったと思う。

2019年10月20日：資料保存について改めて色々なことが気になり、久しぶりに を読んでみた。この「原則」は何回か改訂されていて、最新版といってもかなり前だが、 では「治す」だけでなく「防ぐ」ことにも焦点が当てられている。刊行からだいぶ経った今でも読み返す価値があると思う。

2020年10月10日：あの台風からもうすぐ1年が経つ。国立国会図書館の で、全国各地の国立大学のウェブサイトは定期的に保存されているので、各館の復旧状況を時系列で見比べてみた。

- (a) IFLA 資料保存の原則 (b) IFLA 図書館資料の予防的保存対策の原則
- (c) WARP (d) エミュレーション (e) 環境
- (f) 国立国会図書館サーチ (g) 除籍 (h) 素材
- (i) 図書館における保護と修復の原則 (j) マイグレーション
- (k) レファレンス協同データベース

【No. 8】

次は、「カレントアウェアネス」に掲載された、デジタルアーカイブに関連した規格についての記事の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

文化資料をデジタル化してウェブに公開し、知の公共化をより広く進めることで社会に貢献したい。いわゆる「デジタルアーカイブ」の構築・公開に関わる人なら国内外を問わず多かれ少なかれ共有している気持ちだろう。しかし、それに触れようとする、サイトごとに様々に異なる使い方を覚え、アクセスするたびにウェブサイトを切り替え、どこにあるかわからない資料を探すべく色々なウェブサイトを検索して回る、といった状況があった。このことは、ユーザにとって不便であるというだけでなく、文化資料を活用してもらいたい公開機関の側にとっても、本来の目標達成の障害になってしまっているという捉え方がなされるようになっていた。一方で、個々の機関が別々に専用のウェブシステムを発注して開発作業や高額な費用を個別に負担するという状況を続けることに困難を感じる場面が増えてきた。

このような状況を解決するために、無料で自由に共用できる規格の開発を目指して米英仏等の有力な機関のエンジニア達が手を取り合い、研究助成金を獲得したことで始まったのが (ア) という枠組みであった。(ア) が国際的に大きな広がりを見せるのは、(ア) コミュニティが助成金依存を脱却すべく (ア) コンソーシアムを設立した 2015 年頃からであった。欧米各地の国立図書館や有力な大学図書館・研究図書館を中心に、急速に広まっていったのである。日本国内でも 2016 年には SAT 大正蔵図像 DB が (ア) を全面採用し、東京大学人文情報学拠点が日本から初めて (ア) コンソーシアムの会員となり、その後は京都大学貴重資料デジタルアーカイブや国立国会図書館 (イ)、国文学研究資料館の (ウ) 等の大規模ウェブサイト採用される等、陸続と広がっていった。最近では、ジャパンサーチ、カルチュラル・ジャパン等の大規模ポータルサイトや、KuroNet くずし字認識サービス、「(エ)」等のデジタルアーカイブのコンテンツをさらに利活用するサービスにおいても (ア) が大いに活用されている。

(ア) の基本を一言で表現するならば、各地のウェブサイトで公開されているコンテンツの任意の部分を共通の仕方で取り出せるようにするための技術的なルールを定めたものである。技術的には既存のものを組み合わせただけであり、当初から新規性は皆無だったが、国境を越えた複数の有力機関が共通ルールを採用したという点はまさに画期的であった。

(永崎研宣「(ア) の概要と主要 API バージョン 3.0 の公開」『カレントアウェアネス』346, p.13-16, 2020.12. より抜粋)

(1) 文中の (ア) に該当する最も適切な語を書きなさい (アルファベット大文字 4 字)。

(2) 文中の(イ)～(エ)に該当する最も適切なものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|--------------------|----------------|----------------------|
| (a) JapanKnowledge | (b) J-STAGE | (c) Linked Open Data |
| (d) カーリル | (e) デジタルコレクション | (f) 新書マップ |
| (g) 新日本古典籍総合データベース | | (h) 近代デジタルライブラリー |
| (i) みんなで翻刻 | | |

【No. 9】

次は、情報資源の組織化とその利用に関する記述である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

- 1) 図書館内で特定の図書資料の所在位置を示すためには、一般に分類記号と〔ア〕を組み合わせた請求記号を用いる。〔ア〕としてよく使われるものに、受入順記号法・年代記号法・〔イ〕法がある。〔イ〕法に用いる〔イ〕表は、名前の分布を統計的に処理・推測し、名前ごとに番号を割り当てたものである。わが国では、『日本〔イ〕表』を使うことが多い。
- 2) 欧米の出版物では、〔ウ〕次・〔ウ〕表示は著作の内容の違いを表すという従来の慣行があるが、日本の出版物では印刷回数の記録である〔エ〕次に対しても〔ウ〕という用語を用いる場合がある。奥付に「第3〔ウ〕」などと表示されていても、内容等の変更を伴った〔ウ〕であるかどうかを目録作成者は判断しなければならない。
- 3) 図書館の蔵書を検索する OPAC に対して、蔵書のみならず電子ジャーナルや電子書籍、機関リポジトリ等の多種多様な情報資源を統合的に検索できるシステムが〔オ〕サービスである。複数のデータベースを対象に同一の検索を同時に実行するものに横断検索があるが、〔オ〕サービスでは横断検索と異なり、〔カ〕と呼ばれる定期的なデータ収集・更新が行われる。

(1) (ア), (イ) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|----------|----------|----------|
| (a) 著作記号 | (b) 著者記号 | (c) 図書記号 |
| (d) 別置記号 | (e) 補助記号 | |

(2) (ウ), (エ) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|--------|-------|--------|
| (a) 巻 | (b) 刷 | (c) 出版 |
| (d) 装丁 | (e) 版 | |

(3) (オ), (カ) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | |
|-------------|---------------|--------------|
| (a) ディスカバリー | (b) ディレクトリ型検索 | (c) ハーベスティング |
| (d) マイニング | (e) リンクリゾルバ | |

【No. 10】

次は、列挙型分類に関する記述である。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Enumerative classifications, devised for physical arrangement of library materials, and more recently used also for subject retrieval of digital information. Enumerative classifications aim to list completely – to enumerate – all aspects of knowledge within their scope; they are invariably hierarchically arranged, dividing and subdividing knowledge; the Dewey classification, for example, is divided into ten main classes, each class into ten divisions, and each division into ten sections, with further sub-division as needed.

They are well suited for arranging large volumes of material, especially when a physical arrangement, with a place for each item, is required, and hence are widely used for library classification. They have limitations in dealing with very detailed subject description, and with items involving several concepts; the extent to which they cover all of knowledge has also been critiqued. They are also unsuitable for rapidly changing subject fields, since they cannot be revised frequently. Topics such as ‘Internet’ and ‘AIDS/HIV’, which rapidly generated large volumes of literature, caused problems for enumerative classifications, which initially had no place for them. Because they are widely used internationally, their revision is generally in the hands of international committees, which produce revisions of particular sections and subsections at infrequent intervals.

Nonetheless, enumerative classifications are still the main tools for subject description used in library catalogue records.

The best-known and most widely used examples are: the Dewey Decimal Classification (DDC), devised by the American librarian Melville Dewey and first published in 1876; the Universal Decimal Classification (UDC), first created in 1905 by the documentalists Paul Otlet and Henri La Fontaine, who have been mentioned in previous chapters, as an extension of Dewey’s scheme; and the Library of Congress Classification (LCC), devised by that library, and begun in 1901. They have all undergone continual revision; Dewey, for example, is now in its 22nd edition. Even so, they show their origins: for example, Dewey’s main structure shown above reflects both the 19th-century Western world, and the ‘liberal arts’ setting in which it was created. Although all widely used enumerative classifications have been update in detail, major restructuring is unpopular because of

the upheaval which would be caused to large libraries which use them for physical arrangement of material.

(Bawden. D, & Robinson L. (2012) Introduction to information science p.116-118.より抜粋)

(1)～(4)について、本文の内容に合致するものには○を、合致しないものには×を答えなさい。

- (1) 図書館資料のために考案された列举型分類は、デジタル資料の主題検索には用いられていない。
- (2) 列举型分類は、変化が激しい分野の主題についても、近い分野の既存の分類を当てはめることである程度対応可能である。
- (3) 列举型分類が改訂される頻度は高くない。
- (4) デューイ十進分類法は今もその原型を残しているが、作成当時のリベラルアーツのあり方を後世に示すためである。

【No. 11】

情報検索に関する以下の問いに答えなさい。

- (1) ある特定のデータベース中に、ある情報要求に対する適合レコードが 400 件含まれているとする。当該情報要求を満たすレコードを求めてこのデータベースを検索したところ、60 件のレコードが検索され、その中に 15 件の適合レコードが含まれていた。この時、再現率と精度の値(四捨五入して小数点以下第一位まで)の組み合わせとして適切なものを、下から一つ選んで記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-----|-----|-------|----|-------|
| (a) | 再現率 | 37.5% | 精度 | 15.0% |
| (b) | 再現率 | 3.8% | 精度 | 25.0% |
| (c) | 再現率 | 15.0% | 精度 | 25.0% |
| (d) | 再現率 | 25.0% | 精度 | 3.8% |
| (e) | 再現率 | 3.8% | 精度 | 15.0% |
| (f) | 再現率 | 15.0% | 精度 | 3.8% |

- (2) 検索語「A」で検索した場合は 150 件、検索語「B」で検索した場合は 80 件のレコードがヒットした。このデータベースに対して、「A*B」「A+B」「A-B」という三つの検索を行った場合、ヒットする理論上のレコード件数の範囲をそれぞれ答えなさい。

なお、「*」は論理積を、「+」は論理和を、「-」は論理差を表す論理演算子である。

【No. 12】

次は、図書館利用者の情報ニーズとレファレンスサービスに係る情報探索行動についての記述である。

R.S.テイラーは、図書館利用者が自らの情報ニーズをどの段階まで自覚できているかを把握することがレファレンス担当図書館員に必要として、情報ニーズを4つのレベルに分けて表現した。図書館員は最終的に第4レベルの情報ニーズを把握する必要があるとしている。

	情報ニーズ	状態
第1レベル	(ア)	(オ)
第2レベル	(イ)	(カ)
第3レベル	(ウ)	(キ)
第4レベル	(エ)	(ク)

また、R.S.テイラーと同様に、利用者の抱える課題を段階的に明確化するプロセスによって解決に導くものとして、下図で示されるモデルがある。これは による として知られている。

タスク	開始	選択	探究	形成	収集	提示
感情	不確実 不安	漠然とした 希望	混乱・ フラストレーション・疑い	明快	方向性 自信	満足 不満足
認知	漠然				解放感 (関心増大)	明快
行動	関連情報の 探索・探究				適合情報の収集	文書作成

(1) (ア)～(エ)に該当する情報ニーズを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) compromised need (定式化されたニーズ)
- (b) conscious need (意識化されたニーズ)
- (c) formalized need (言語化されたニーズ)
- (d) visceral need (背景化されたニーズ)

(2) (オ) ~ (ク) に該当する図書館利用者の状態を下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) 欠けている知識が明確に定義され，論理的な質問を発することができる。
- (b) 質問する相手の知識構造や理解力を想定し，相手が答えられるような質問をすることができる。
- (c) どんな知識が必要か分かっているが，どんな情報が必要か人に説明できない。周囲の人に漠然と質問することで求める情報が明確化する。
- (d) 必要な知識が不足していることを漠然と感じているが，どんな知識が欠けていてそのギャップを埋めるためにどんな情報を探したらよいか分からない。

(3) (ケ) に該当する人名を下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) Brookes, B. C.
- (b) Elis, D.
- (c) Kuhlthau, C. C.
- (d) Tenopir, C.

(4) (コ) に該当するものを下から一つ選んで記号で答えなさい。

- (a) ISP(Information Search Process)モデル
- (b) ベリーピッキング(Berrypicking)モデル
- (c) ASK(Anomalous State of Knowledge)仮説
- (d) 意味付与(Sense Making)モデル

【No. 13】

次は、オーストラリアの大学 Edith Cowan University (ECU) の教職員による学習支援に関する雑誌論文の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

The COVID-19 pandemic has been one of the most significant global events of the 21st century, causing fundamental shifts in the ways people use technology and maintain social connections during times of mandatory self-isolation. The worldwide spread of the virus has had a particularly disruptive effect on the higher education sector. Many universities have been compelled to close physical campuses, adjust to changes in international student mobility, and rapidly deploy student support in an online environment. While these developments might catalyse some positive change in online teaching and learning practices, there are millions of university students globally that have been significantly impacted by the immediate requirement to learn from home. Student barriers to online learning already existed in normal circumstances, yet trends in employment and technological access brought about by COVID-19 only increased these barriers for many students.

ECU's Library and its Centre for Learning and Teaching (CLT) focused on expanding academic support outside of the curriculum. Some online support already existed, primarily in the form of resources such as workshop recordings, library guides and tip sheets. Many universities traditionally offer these types of online learning support but without accompanying options for live access to a learning adviser, librarian or peer leader. However, the onset of the COVID-19 pandemic prompted the creation of three key new ECU support options: self-access resources and videos for preparing to learn online, videoconference appointments with learning advisers and librarians, and virtual peer support for online learning.

In order to support students rapidly prepare to learn in an online environment, professional support staff from the Library and CLT developed a series of short videos on navigating the learning technologies students would be using for learning, collaboration and creation. To prepare these videos, staff either utilised current technology skills in video production or rapidly upskilled in video creation by watching demonstrative videos online and the resources available on LinkedIn Learning. Clear guidelines were also set about how these videos must be put together: each one had to be five minutes or less, focus on the key steps for accessing critical online information using visual guides, and be accompanied by clear audio instructions. The audio and any

written instructions needed to be intentionally positive and supportive in order to build student confidence and motivation about learning online. They also needed to be peer reviewed by another team member before publication. Overall, a suite of videos was created for how to use Blackboard, Blackboard Collaborate, Microsoft Teams and Zoom. Each video included captions to improve accessibility for non-native English speakers and students with a hearing disability.

(Kelly, A., Johnston, N., & Matthews, S. (2020). Online self-access learning support during the COVID-19 pandemic: An Australian university case study. *Studies in Self-Access Learning Journal*, 11(3), 187–198.より抜粋)

(1)～(4)について、本文の内容に合致するものには○を、合致しないものには×を答えなさい。

- (1) ECU の図書館と学習教育センター (CLT) は、協力して COVID-19 パンデミック下で初めてオンラインの学習支援を行った。
- (2) ECU の図書館と学習教育センター (CLT) は、オンライン学習資料を作成するだけでなく、学習アドバイザーや図書館員とのビデオ相談の予約方法を整え、バーチャルな対面サポートを行った。
- (3) ECU の図書館員と学習教育センター (CLT) のスタッフが作成した動画教材は、オンライン授業の代替にもなるよう、時間的に1時限相当の長さになるよう細心の注意が払われた。
- (4) 動画教材作成が急がれたにもかかわらず、英語を母語としない学生や障害のある学生に配慮して、動画教材は字幕付きのものにした。

【No. 14】

次は、図書館業務に関する記述である。正しいものには○を、間違っているものには×を答えなさい。

- (1) 蔵書構築の方針に合致した図書を選定する業務を選書という。選書には、受賞作品、新聞や雑誌の書評、取次や書店が発行する新刊案内を参考にする「見計らい」と呼ばれる方法や、利用者の購入希望を参考にする方法等がある。
- (2) 閲覧席や集会施設等の提供は、図書館のサービスとして定着している。大学図書館では学生の学習を支援する「ラーニングコモンズ」の設置が広がっており、施設や機器と学生の学習を結びつけるために、図書館員による学生への支援を強化している例もある。
- (3) 書庫管理業務では、図書館の蔵書として受け入れた資料を利用の減少や破損といった理由で廃棄することはできないため、新しく受け入れた資料の排架と保存のためのスペースを確保しつつ、将来の書庫拡張を視野に入れて維持・管理を行う必要がある。
- (4) レファレンスサービス業務では、利用者からの質問への回答として、情報源の提示、探索法の指導などを行う。医療にかかわる健康相談や法律トラブルの相談に回答しなければならず、情報源、情報検索、情報利用行動等に関する専門的知識が必要とされる。

【No. 15】

次は、学術雑誌 "College and Research Libraries" に掲載された、学生の図書館資料の利用と学業成績との関連に関する論文の一部である。これを読んで以下の問いに答えなさい。

Academic libraries must demonstrate empirically that library usage does contribute positively to student academic performance and, thereby, to the university's effectiveness. While customary academic library assessment practices may not be sufficient for this purpose, the Hong Kong Baptist University (HKBU) Library undertook an experimental project, which intended to establish a mathematical correlation between student library material usage and their cumulative grade point average (GPA).

The subjects of this study were all HKBU students who had graduated within the last three years (from 2007 to 2009) with cumulative GPA given. A total of 8,701 students were identified. The two selected independent variables in this analysis were:

1. Graduation GPA of the students (denoted as "GPA"), ranging from 1.82 to 4.00.
2. The number of times these students had checked out books and AV materials during their study at HKBU, not taking the number of renewals into account (denoted as "CHKOUT"). This data ranged from 0 to 1,054.

Cases (pairs of data) were first divided into 53 sample groups, according to their study major (a couple of examples: Translation, Biology) and level of study (undergraduate or graduate level). Among the 53 sample groups that we identified, 5 of them had sample size not greater than 30 and thus were invalid.

Among the 48 valid sample groups, 31 sample groups (65 percent) were statistically proven to have a positive relationship between GPA and CHKOUT in the corresponding population. No sample groups were found to have a negative correlation between the two variables. The remaining 35 percent had no clear relationship.

From the results, we can make two conclusions for the students of Academy of Visual Arts, Faculty of Social Sciences, Faculty of Arts, School of Communication, and Faculty of Science. Either or both of these two conclusions were statistically proven to be valid.

Conclusion One: Most students follow the inference that the more library books and audiovisual materials they use, the higher GPAs they acquire.

Conclusion Two: Most students follow the inference that the higher GPAs they have, the more library books and audiovisual materials they use.

This result brings us (and, one hopes, also other libraries) meaningful implications. First, this study can serve as strong evidence to show the university administration that the library plays an important role in student learning and their academic success for these five Faculties/Schools. Even though some people may choose not to accept Conclusion One, they cannot deny the proven fact that students who have higher GPAs use (or like to use) more monographs and multimedia resources that are provided by the library. The importance of the library is still soundly proven.

Correlation analysis can only reflect the relationship between two sets of data, including (1) if an association exists, (2) if the association is a positive or a negative relationship, and (3) the strength of the association. Correlation tests cannot tell the cause-and-effect relationship. Therefore, through this study, we cannot simply make a conclusion that the use of books and audiovisual materials is statistically proven to be one of the determinant factors of a higher GPA for the graduate students of Mathematics, undergraduate students of Humanities, and so on. Another possible scenario could be that the students who have higher GPAs tend to use more books and multimedia materials. Yet, this study and the results are still meaningful in various aspects.

(Wong, S.H.R., Webb, T.D. 2011. "Uncovering meaningful Correlation between student academic performance and library material usage." *College and Research Libraries* 72(4), p.361-370. より抜粋)

(1) ~ (4) について、本文の内容に合致するものには○を、合致しないものには×を答えなさい。

(1) 香港バプテスト大学図書館では、2007年から2009年の卒業生のデータを用いて、図書館の利用がGPAに及ぼす影響について分析を行なった。

(2) 分析の結果、図書及び視聴覚資料の貸出回数とGPAとの間に正の相関が認められたことから、図書館を利用することにより成績が向上することを実証できた。

- (3) この分析結果は、学生の学習に図書館が重要な役割を果たしていることを大学の経営陣に示す上での強力な証拠となる。
- (4) 図書館が大学の経営陣に対し、モノグラフや視聴覚資料の予算の強化の正当性を主張するには、この分析では不十分であり、より多くのデータを集めることが必要である。

【No. 16】

次は、図書館サービス立案の計画手順と、それに沿ったA大学図書館における実践例を、それぞれ計画の進行順に並べたものである。

進行順	図書館サービス立案の計画手順	実践例 (A大学図書館)
↓	コミュニティの図書館ニーズ調査	現在の図書館について学生にアンケート調査を実施したところ、休息もできる居心地のいい空間を求める声が多かった
	(ア)	(あ)
	コミュニティ内の図書館の役割の明確化	A大学のキャンパスにはラウンジやベンチが少なく、図書館にも休憩スペースが必要である
	(イ)	(い)
	戦略の策定と評価	図書館内の自動販売機周辺エリアを見直し、什器の買い替えや配置を検討する
(ウ)	(う)	
	目標と到達指標に対する進展状況の追跡と評価	定期的に休憩スペースの利用状況調査を行う

- (1) 上の (ア) と (あ) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。
- (2) 上の (イ) と (い) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。
- (3) 上の (ウ) と (う) に該当するものを下からそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

図書館サービス立案の計画手順	実践例 (A 大学図書館)
(a) 現行の図書館サービス・資源の評価	(d) 学生が自ら学ぶための空間の確保と見直しも重要だが、今年度は休憩スペースの設置を優先とする
(b) 戦略の適用	(e) 図書館内に閲覧席は多数あるが、飲食や休憩ができるスペースがほとんどない
(c) 目的, 目標, 優先順位の設定	(f) 必要な什器を購入し, 適切な位置に設置する